



さらなる生産拡大を誓った4年連続10億円販売達成大会

4年連続販売額10億円達成を祝う

ねぎ部会

「白神ねぎ」の4年連続10億円販売達成大会と実績検討会が1月24日に能代市で開かれ、10億円産地の確立を祝うとともにさらなる生産拡大、ブランド力の向上に努めることを誓い合いました。

大会には、生産者やJA、行政の関係者ら約140人が出席。大塚和浩部会長は「春の低温、夏の猛暑、その後の台風と厳しい栽培環境だったが、生産者の高い栽培技術によって高品質出荷が実現された。平成が始まった頃の販売額は1億円前後で、15億円産地になるとは思ってもい

なかった。新年度も自然の恵み、大地の力、先輩から受け継いだ技術を最大限生かし、全国のトップブランドを目指す」、佐藤謙悦組合長は「市場関係者からも、白神ねぎの更なる安定供給に向けた生産拡大が求められてくる。これを契機に、更なる知名度向上と併せ、需要に応えられる量の確保を進め、産地の飛躍を期待する」とあいさつしました。1月末実績は、出荷量3770t、販売額14億8975万円、単価395円となっており、7～10月までの1kg当たりの単価は400円を超える高値で推移しました。

出荷規格の統一を確認

アスパラガス部会

アスパラガス部会（大塚剛志部会長）は、促成アスパラガスの出荷に向けて、規格等を確認する目揃会を開きました。

目揃会には生産者やJA、市場関係者ら約15人が参加。大塚部会長が「大雨や高温、台風で栽培に苦労した年だった。今後はハウス内での管理となるが、温度管理を徹底して良質なアスパラガスを出荷していこう」とあいさつ。その後、市場情勢等が報告され、東京シティ青果の担当者は「白神産は安定して出荷されている。単価を崩さないよう販売するので最後の1本まで出荷してもらいたい」と白神産アスパラガスの出荷を待ち望んでいました。



規格の説明を受ける生産者



規格を確認する生産者

出荷最盛期を前に目揃会を開く

山うど部会

山うど部会（桜田和浩部会長）は1月10日、平成30年度山うど出荷目揃会を開き、出荷本番を迎える山うどの規格等を確認しました。

目揃会には生産者やJA、市場関係者ら約30人が参加。桜田部会長は「出荷が始まり例年通りの単価が付いている。この目揃会で規格等をしっかり学び、高品質な白神山うどを出荷してもらいたい」とあいさつ。その後、JA担当者からは「伏せ込み床の排水対策をしっかり行い、無理な加温はしないで適切な温度管理を徹底してもらいたい」と今後の栽培の注意点を呼び掛けました。今年度は1億47万円の販売額を見込んでいます。

